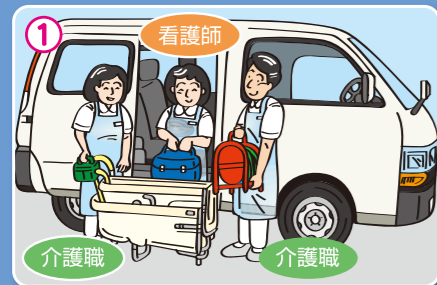


居室でお風呂。訪問入浴をもっと知ろう!

訪問入浴介護サービスはこのように提供されております。(標準的手順)



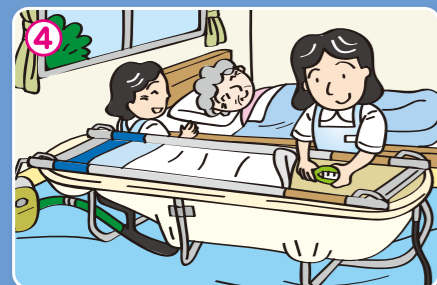
準備を整え、看護師・介護職二名の三人一組でご要望に応じた日時に訪問いたします。



看護師がお伺いして、血圧・体温・脈拍などを測定し当日の入浴の可否判断を行います。



ベッドのそばに浴槽を設置して入浴の準備。バスタブシートを敷きますから床(畳)を濡らす事はありません。



さあ、浴槽にお湯を供給。湯温を確認し入浴準備完了。



待っていた入浴のひとつ。「よろこびの一日」を感じる時間です。



上がり湯はシャワーをたっぷり浴びて、さわやかに。



着衣の交換が終わったら、髪もドライヤーで念入りに。身だしなみを整えて。



入浴後の健康チェックを行い今日はおしまい。「今度のお風呂はいつ来てくれるの?」



次回の訪問を楽しみに!

入浴車による訪問入浴介護サービスは、介護保険制度における在宅サービスの一つです。

訪問入浴介護サービスは、継続的な医療処置を受けている方でも利用することができます。主治医や看護師の支援のもと、安全で快適な入浴を楽しみましょう。



在宅介護で 安心して暮らす



食事・排泄・入浴の不安を解決!!

家での介護は不安と思いませんか？

在宅介護にはその人に合わせたサービスがあります！

生活支援・身体介護（食事・排泄・入浴）

自宅での生活を継続するためには、身体状況や環境（家族・家屋設備など）に合わせたサービスを選択できます。



●居宅サービスの主な種類とその内容●

■訪問によるサービス

訪問介護

ホームヘルパーが居宅を訪問し、食事や入浴などの身体介護、食事の準備や洗濯などの生活援助を行うサービスです。

訪問入浴介護

家庭での浴槽では入浴が困難な人のために、浴槽を持ち込んで入浴を介助するサービスです。衣類の着脱、浴槽までの移動、入浴中の介助、入浴前後の体調チェックなどを受けられます。



訪問看護

医師の指示のもと、看護師などが居宅を訪問して、療養上の世話や診療の補助を行うサービスです。

訪問リハビリテーション

理学療法士や作業療法士などが、ご利用者の居宅を訪問し、生活に必要な動作や、身体機能を向上するためにリハビリテーションを行います。



■通ったり、宿泊するサービス

デイサービス（通所介護）、 デイケア（通所リハビリテーション）

通所施設で入浴や食事の介助など身の回りの世話を基本としたサービスです。機能訓練やレクリエーションなどが受けられる施設もあります。デイケアは介護老人保健施設や病院などで食事、入浴、リハビリテーションを受けられます。



ショートステイ（短期入所生活介護など）

短期間、ご利用者が施設に宿泊し食事や入浴、排泄などの介助や機能訓練を受けます。「短期入所生活介護」や「短期入所療養介護」がこれに該当します。

■地域密着型サービス

小規模多機能型居宅介護など

通いサービスを中心に、その時の状態に応じて訪問サービスや、泊まりを組み合わせる介護サービスを受けます。医療的ケアが必要な場合、看護小規模多機能居宅介護もあります。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

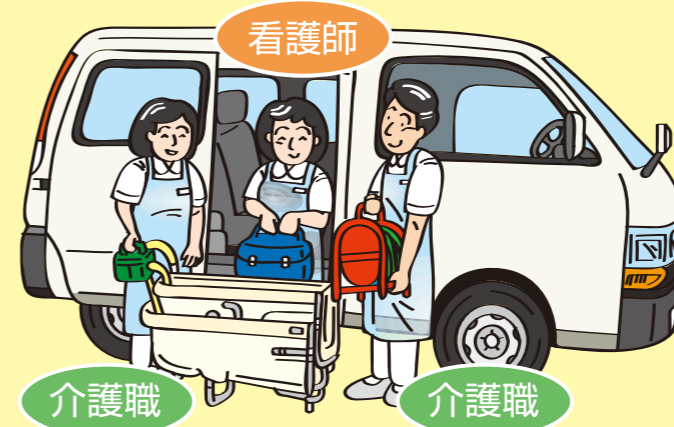
1日を通して、ホームヘルパーや看護師が定期的に巡回訪問と、随時対応・訪問を行うサービスです。

上記以外のサービス

上記以外にも、家庭での介護に必要な福祉用具を借りられる「福祉用具貸与」、特定福祉用具を購入できる「特定福祉用具販売」、介護保険の指定を受けている有料老人ホームやケアハウスなどの、特定の施設に入居している人が受けられる「特定施設入居者生活介護」などがあります。

自宅でも安心して入浴ができる訪問入浴介護

看護師、介護職2名の3名1チームで、
ご自宅に訪問。



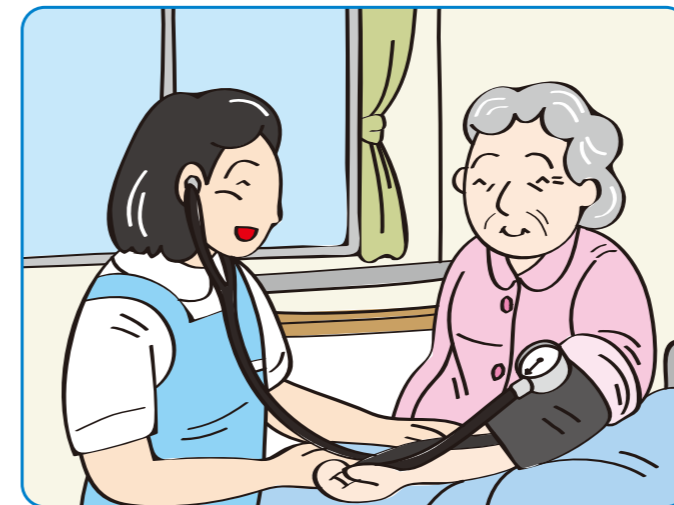
介護保険での、サービス提供が受けられます。

（介護保険以外での、サービス提供もごさいます。）

介護・介助の必要な高齢者や障がい者の方々が、ご自宅のお部屋でそのまま入浴出来るサービスです。

専用の浴槽を装備した移動入浴車で訪問し、約2畳のスペースがあればベッドや布団のそばで、入浴が可能です。

その日の体調に合わせて、安全で快適な介助が提供されます。



入浴前に看護師が体調確認。
その日の容態に合わせ、入浴や清拭を提供します。



体調が良いと確認出来た場合
湯船につかる安心入浴

入浴が難しい場合清拭に変更
※体調不良などの場合、体を拭く、清拭に変更します。

当リーフレットで使用されている以下のイラスト（ピクトグラム）は、インターネットにてダウンロードが出来ます。詳しくは記載のホームページをご覧ください。



ホームページ <http://www.develo-group.co.jp> デベロ 検索

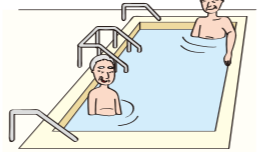
介護サービスで入れるお風呂の種類

立位が保てる
自力歩行が出来る

■自宅浴槽のほかに通所(デイサービス)、小規模多機能型居宅介護事業所等の施設で入浴が出来ます。
◆数名の方が入浴できるように設計された、多人数対応の浴槽です。
◆一般のご家庭にあるお風呂と、最も近い浴槽です。



個人浴(通常浴槽)
Personal Care Bathtub

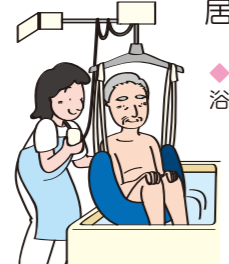


多数浴(大浴場タイプ)
Large Communal Bathtub



座位が保てる
車イスで移動が出来る

■自宅浴槽での介助(訪問介護・訪問看護)、通所(デイサービス)、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所等の施設で入浴ができます。



リフト浴
Bathtub with Assisting Lift

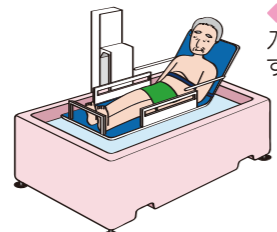


チェア浴
Bathtub with Chair

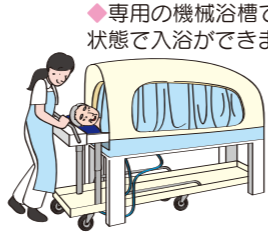


自力での入浴が
困難な方
車イスでの移動が
困難等
(施設)

■上記のサービスのほかに入居施設等で入浴が出来ます。
◆寝たまま、入浴ができます。
◆専用の機械浴槽で、寝たままの状態に入浴ができます。



ストレッチャー浴
Bathtub with Stretcher



ドーム浴
Dome Typed Bathtub



自力での入浴が
困難な方
(在宅)

■在宅で訪問入浴介護による入浴ができます。



◆専用の浴槽を装備した移動入浴車で訪問し、ご自宅のお部屋で入浴が出来ます。



訪問入浴介護
Home Visit Bathing Long-Term Care

※各介護事業所(施設)によって浴槽のタイプは異なります。

病院から退院後、一人暮らしで
在宅生活を始めたAさん。

退院直後は容態の不安もあり、大好きなお風呂は訪問入浴を一時的に活用。その後順調にリハビリも進み通所介護へ。生活にもハリがでて、徐々に自分で出来ることが増えてきました。

「福祉用具貸与」

「リハビリ」

Aさん

「訪問介護」

「訪問入浴」

歩行に不安のある
一人暮らしのBさん。

社会的でお元氣ですが、歩行に不安が…。遠くで暮らす親戚も不安でしたが、定期的な援助や状況の応じた支援によって、自宅で安心して暮らしています。

「福祉用具貸与」

Bさん

小規模多機能型居宅介護

「訪問」「通い」「泊り」

医療支援が必要な
Cさん。

定期的な看護師の訪問とホームヘルパーの支援で生活。自力での移動が困難なため訪問入浴を活用。日々をベッドで過ごすCさんにとって、お風呂は何よりも楽しみです。

「福祉用具貸与」

Cさん

「訪問看護」

「訪問入浴」

「訪問介護」

在宅介護サービスの活用で安心して暮らせる!!

大好きなお風呂に入りたい！ お風呂の効果

入浴により、身体的効果・精神的効果・社会的効果の3つの効果が期待できます。

身体的
効果

精神的
効果

社会的
効果

身体的効果とは

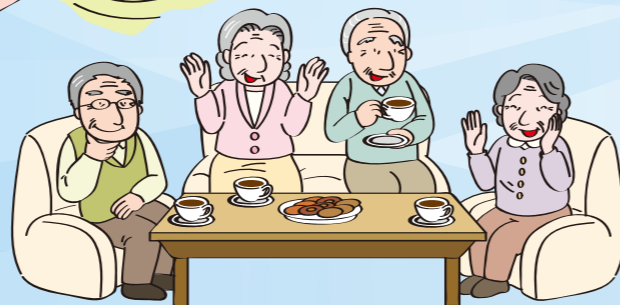
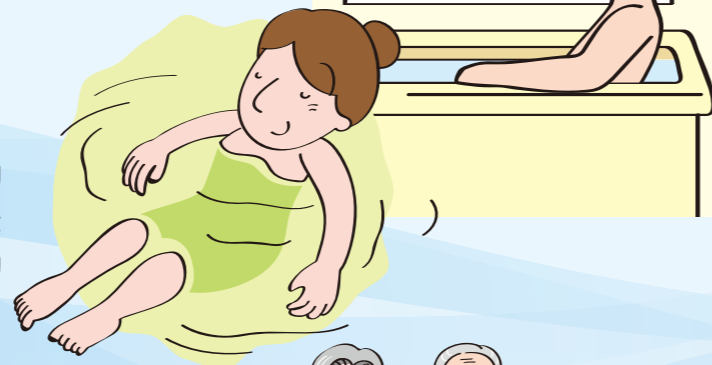
入浴により、身体を清潔に保ち、湯温による保温効果、血流や皮膚の新陳代謝を高める効果があります。また、温かいお湯につかることで、筋肉の緊張をほぐしたり、身体機能が低下することを防止する効果も期待できます。

精神的効果とは

入浴することで一日の疲れをとり、爽快感やリラックス効果（精神の安定）を得ることができます。それらの効果は生きる喜びや、明日への活力をもたらします。

社会的効果とは

入浴により身体を清潔にすることで、社会参加への意欲がわき、人とのコミュニケーションや行事への参加等、外出する機会が増えるなどの良い効果が期待できます。



入浴時の注意点

入浴前



●食後・飲酒後は避けましょう

食後は血液が消化器官に集中するため、休憩が必要です。また酔っていると脳の働きが低下し、転倒や溺れの危険が伴います。

●脱衣所の温度を適温にしましょう

冬場の入浴時は、寒冷刺激により血圧が上昇します。脱衣所や浴室の温度を適温に保ちましょう。浴室のふたをしばらく開けておくと湯温で浴室内も温まります。

●水分を補給しましょう

発汗による血液の粘性（ドロドロ血）を避けるため、入浴前は水分を補いましょう。



入浴時



●浴槽に入る前かけ湯をしましょう

冬場の入浴時は、入浴の際の温熱刺激による一過性の血圧の上昇が見られます。血圧の上昇を避けるため、入浴前はかけ湯をしましょう。

●湯温に気をつけましょう(41℃以下)

38℃～40℃のぬるめのお湯(体温に近いお湯)は、体をリラックス状態にします。42℃以上の熱いお湯は、体が興奮状態になります。湯温には特に注意しましょう。

●ゴシゴシ洗いは避けましょう

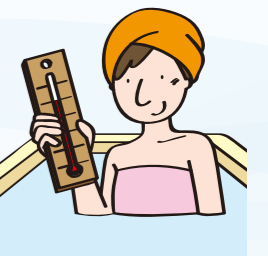
身体を洗う時は、無理に角質をはがしてしまわないように、石鹸を泡立てて皮膚をやさしくなでるようにしましょう。

●長湯は避けましょう

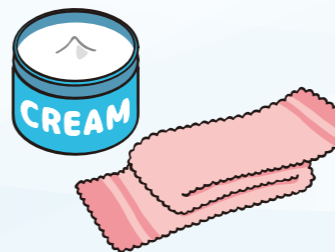
掛け湯をして、ゆっくり半身浴から全身浴に。湯船から出て体を洗い、半身浴から全身浴に。湯船から出て体を洗い、半身浴で副交感神経を優位にし、リラックスします。約15～20分を目安に入浴しましょう。

●出浴時はゆっくり立ち上がりましょう

出浴時は、血圧の急降下による立ちくらみ、めまいが起こることがあります。湯船からはゆっくり立ち上がりましょう。



入浴後



●保温・保湿を心掛けましょう

特に冬場の入浴においては、入浴後の保温と保湿に努めましょう。手軽な方法として首にタオルを巻くのも有効です。皮膚の乾燥を防ぐためにクリーム等で保湿しましょう。

●水分を補給しましょう

出浴後は、入浴で失われた水分を補いましょう。そしてゆっくり休憩しましょう。

